

The *PATHOS* magazine of Kumamoto General Hospital

独立行政法人

地域医療機能推進機構 (JCHO)

熊本総合病院だより

ぱとす



第53号

2026年
夏号

Volume 14 Number 3 July 2026

医療の神様からの納涼をお届け致します



病院長あいさつ

呼吸器外科医師着任

人工関節センター

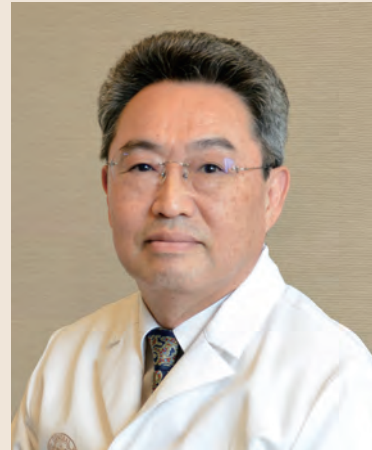
脳卒中リハビリテーション

病診連携会

国民の血税チュウチュウ

暑中お見舞い申し上げます。

本年2月末に勃発したイラン・米国イスラエル戦争によって封鎖されたホルムズ海峡も解放されるかに見えましたが、イランはアメリカとの間で署名した覚書に違反があったとしてホルムズ海峡の再封鎖を宣言したそうで、日本は燃料高・原油不足・物流高・食品高の状態が続いております。誠に、日本の将来に不安が募る夏となっておりますが、表紙に掲載致しました当院北館玄関前の医療の神様の噴水が、皆様方の納涼の一助となれば幸いです。



当院は、皆様方のご支援の下、一丸となってさらに質の高い急性期医療の実践を行ないながら、「まちづくり」にも貢献するように最大限の努力をしております。そして、このように努力できますことは、医師会、熊本大学教授陣、国・県・市行政ならびに市民の皆様方のご支援の賜と深く感謝申し上げます。

ところで、このような物価高の中、日本の税金や社会保険料を含めた国民負担率は46％に達し、給料天引きの負担が生活を圧迫していると多くの国民が実感しているところです。さらに、国民の目をすり抜けている「血税の使い道の不透明さ」も大問題であり、国民が負担したくない主因となっていることは当然のことでございます。

例えば、当院の真横にある八代市役所は「官製談合汚職の巣窟」として、恥ずかしいことに全国的にその名を馳せております。また、当院を含む独立行政法人は、元々は国民の資産が原資であるにも関わらず、トップに強大な権限を与えているため、「本部における不透明な資金の使い道」は、国民側からのブラックボックスとなっております。いずれに致しましても、権力を有する者あるいは権力の裏に巣食う者達の「国民の血税チュウチュウ」以外の何物でもございません。

さておき、国民が納得できない税金や負担の一部をあげてみますと、復興特別所得税、防衛費増税、そして、再エネ賦課金でしょうか。復興特別所得税は、東日本大震災からの復興に必要な財源を確保するために所得税の2.1％を何と25年間に亘って徴収されますが、目的の「被災者支援・まちづくり・なりわい再生・創造的復興」など税金に見合った資金の投入が健全に行われているとは言い難いでしょう。防衛費増税では、JCHOは各病院の経営が苦しい中、政府に言われるがままコロナ補助金の324億円を防衛費に戻しましたし、今後GDP比1％を3.5％に引き上げるそうですが、アメリカに武器購入のために支払った1兆4千億円の武器は未だ納入されず、何と更に5年間は棚上げだそうです。納入されない契約を今後も続けて行くなれば、防衛費とは名ばかりの「上納金」と呼ばざるを得ません。再エネ賦課金に至っては、再生可能エネルギー普及のためと国民に義務化し、電気使用料に上乗せして全ての利用者が4.2円/kWh（2012年導入時の19倍）も支払って、結局は、主に太陽光パネルを製造している中国に流れておりますし、また、そのパネル製造はウイグル族などの少数民族に対する強制労働との国際的な指摘もあることは、皆様ご承知の通りです。

このように、日本では国民が無垢であることをいいことに、「広く集めた血税の使い道を不透明」にして「血税をチュウチュウ」するなんて、悪党の所業であり、誠に遺憾です。本当に、犠牲になるのはいつも国民であり、あざ笑っているのはいつも権力を有する者あるいは権力の裏に巣食う者達です。

わたくし共の熊本総合病院は、今夏も引き続き全職員が一丸となって、「医療とともに、公に一肌脱ぎ」ながら「医療のみならずまちづくりにも貢献する」意気込みで、地方創生・人口増加・少子化阻止にも少しでも寄与できるように、さらに精進して参ります。今後とも、皆様方の格別のご支援を何卒宜しくお願い申し上げますとともに、皆様方のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

令和8年 7月吉日

【呼吸器外科】着任のご挨拶

呼吸器外科診療部長 池田 公英

このたび、令和8年7月1日付で熊本総合病院の呼吸器外科診療部長として着任いたしました。呼吸器外科では、心臓・大血管・乳腺を除く胸部疾患に対する外科治療を担当しております。なかでも、肺がんや縦隔腫瘍の手術が主な診療内容です。近年、この分野では術後の疼痛軽減や整容面への配慮を目的として、胸腔鏡手術やロボット支援手術が大きく発展してまいりました。さらに、切除する肺の容量をできるだけ温存する肺区域切除の重要性も高まっています。加えて、進行がんに対しては、分子標的治療、免疫療法、放射線治療に手術を組み合わせた集学的治療も日々進歩を続けています。

私は2005年の開局当初より、熊本大学呼吸器外科において20年にわたり診療に従事してまいりました。現在、同教室は九州でも有数の手術症例数を誇る施設となっております。また、2018年からは准教授として教室運営にも携わってまいりました。

今後は、これまで培ってきた経験を生かし、熊本総合病院において県南地域全体の呼吸器外科診療の一翼を担ってまいりたいと考えております。熊本総合病院には、最先端の手術支援ロボットであるダヴィンチXiが導入されており、そのほかにも先進的な呼吸器外科治療を行うための設備と体制が整っています。当科の松石医長、呼吸器内科の城基部長、さらに非常勤でご協力いただく熊本大学呼吸器外科の鈴木教授と密に連携し、八代の地で最良の呼吸器外科治療を提供できるよう尽力してまいります。今後ともご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



胸腔鏡手術



松石健太郎 医長

熊本大学 鈴木実 教授

池田公英 診療部長

人工関節センターを設立しました

整形外科診療部長 菊川 憲志

超高齢社会を迎え、「平均寿命」とともに「健康寿命」という言葉が浸透してきています。健康寿命とは、介護や支援を必要とせず、心身ともに自立して生活できる期間のことです。2022年のデータでは、「平均寿命－健康寿命」は男性8.49年、女性11.63年でした。この数値をいかに小さくするか、言い換えると「長く生きる」だけでなく「不健康期間をどう短くするか」は本人のみでなく家族や社会にとっても重要な課題とされています。

健康寿命に大きく関わる要素の一つが、「関節の健康」です。特に膝や股関節に痛みがあると、外出や運動を避けるようになり、筋力や体力の低下につながります。さらに活動量が減ることで、転倒や寝たきりのリスクが高まることもあります。こうした関節の痛みが進行し、薬やリハビリテーションなどの治療で十分な改善が得られない場合に選択肢となるのが人工関節です。人工関節は、傷んだ関節を人工の部品に置き換える手術で、主に膝関節や股関節で広く行われています。

2025年度当院整形外科で人工関節を172例（全体の19%）に施行しました。以上のような社会背景および人工関節におけるレベルアップを図るため、この度人工関節センターを設立しました。センター長には整形外科医長の白石大偉輔医師が就任しました。

人工肩関節置換術（図1）

状況に応じて、解剖学的型（a）、リバーstype（b）と使い分けています。

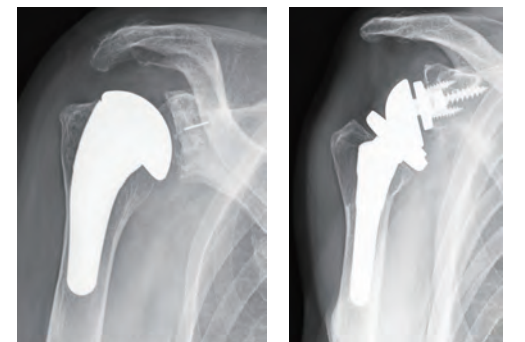
人工股関節置換術（図2）

手術前のナビゲーション導入を検討しています。

人工膝関節置換術（図3）

ロボット手術（b）を導入、また両側同時手術も行っています。

健康寿命を延ばすためには、日頃からの運動や栄養管理に加え、関節の痛みを早めにケアすることが重要です。人工関節は、失われた活動性を取り戻し、自分らしい生活を送るための有力な治療選択肢の一つといえます。



a 図1 b



図2



a



b

図3

歩みを支え、休まずつなぐ ー脳卒中リハビリテーションの新たな取り組みー

リハビリテーション部

脳卒中後の機能回復には、できるだけ早い時期から継続してリハビリテーションに取り組むことが重要です。当院では、患者さんの「もう一度歩きたい」「自宅へ帰りたい」という思いに応えるため、リハビリテーション体制のさらなる充実を進めています。

このたび、**リハビリ室と病棟にそれぞれ免荷式トレッドミル（Medicalcare Pit）を導入しました。**免荷式トレッドミルは、専用のハーネスで体重の一部を支えながら安全に歩行訓練を行うための機器です。転倒への不安を軽減しつつ、**患者さん一人ひとりの状態に合わせた訓練が可能となり、より早い時期から集中的な歩行訓練に取り組める**ようになりました。また、**病棟への設置**により、生活の場に近い環境で継続的な歩行訓練が可能となり、回復への歩みをさらに後押しします。

さらに、これまで実施していた土曜日リハビリテーションに加え、**7月からは日曜日のリハビリテーションを開始**します。休日も継続してリハビリを提供することで活動量の維持・向上を図り、回復の機会をさらに広げます。継続した訓練は機能改善だけでなく、早期の在宅復帰や社会復帰にもつながることが期待されます。

当院はこれからも、新たな設備と充実したリハビリテーション体制を活かし、患者さん一人ひとりに寄り添いながら、より質の高いリハビリテーションを提供してまいります。



12階病棟



北館3階 リハビリ室

第11回 熊本総合病院病診連携会について

地域医療連携室

令和8年5月20日に第11回熊本総合病院病診連携会を開催しました。当日は雨天にもかかわらず70名の先生方にご参加いただき、心より感謝申し上げます。

開催にあたり島田病院長より日頃の病診連携に対する感謝の言葉の後、「外来患者さんは医師会の先生方に診療していただく」という当院の基本方針に基づき、令和7年度の逆紹介率は121.5%となり、多くの患者さんを地域のかかりつけの先生方へお戻しすることができたとの報告を行いました。

当日は、4月より着任した川崎修二医師（糖尿病センター長・健康管理センター長）をはじめ、中曽根豊医師（画像診断センター長）、白石大偉輔医師（人工関節センター長）による**病診連携講座を開催しました。**また、**新たに開設した人工関節センターについて**菊川憲志医師（整形外科診療部長）より紹介があり、専門医療への取り組みを広くお伝えする機会となりました。

意見交換懇親会では、八代市医師会副会長上野直嗣先生による乾杯のご発声後、心地よいピアノの生演奏会とともに**Face-to-faceで当院の医師・スタッフとの活発な意見交換が行われました。**ご参加の皆さまからは大変貴重なご意見やお褒めの言葉を頂戴し感謝申し上げます。八代郡市医師会会長峯苦貴明先生より中締めを頂き、**病診連携会は盛況のうちに無事閉会いたしました。**

地域医療連携室では、病棟専任スタッフによる退院支援を行っており、外来患者さんやご家族からの相談にも随時対応しております。また、先生方からご紹介いただいた患者さんに関するお返事が迅速かつ確実にできるよう、さらに努めてまいります。



病院長挨拶



病診連携講座

こんにちは赤ちゃん

ご出産おめでとうございます 健やかな成長を、心より願っています。



新人看護職員研修

当院では、年間を通して計画的な看護教育を実施しています。特に、新人看護師が実践的な看護技術を身につけられるよう、**北館の教育シミュレーション室**を活用しトレーニングを行っています。

質の高い看護師の育成を目指し、**院内の多職種が連携して支援**しています。



看護の日のイベントを開催しました

看護の日（5月12日）は、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、国民に看護の心やケアの心を育んでもらう目的で1990年に制定された記念日です。この日を含む一週間は「看護週間」とされ、当院でも**5月13日に看護イベントを開催しました。**

身体計測や血圧測定、ロコモティブシンドローム判定、健康・栄養相談コーナーを設置し、**多数の地域住民の皆様にご参加いただきました。**

今後も市民の皆様の健康維持、増進に役立つ活動を続けてまいります。



駐車場のご利用について

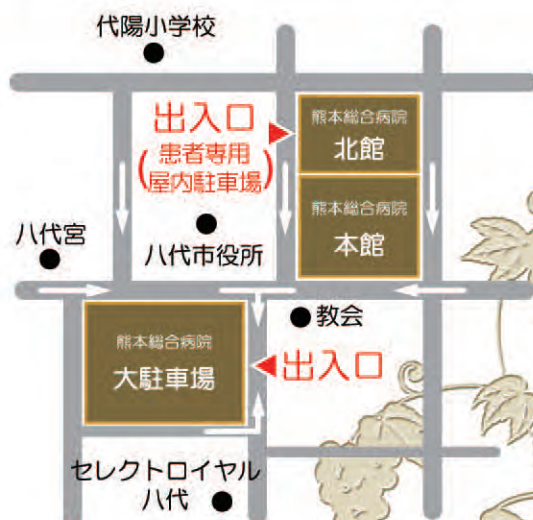
患者専用駐車場

熊本総合病院**北館1階に患者専用駐車場**をご用意しております。屋内の駐車場ですので天候に左右されずご利用いただけます。**無料ですが、認証が必要です。**

大駐車場

基本的に**無料**ですが、**平日は当院による認証が必要**となっております。**土日祝日は市街地活性化のために認証不要**です。

22時以降の駐車はできません。（以降は高額な駐車料となります）



電話 0965-32-7111(代表)
FAX 0965-32-2772
URL <https://kumamoto.jcho.go.jp/>
発行日：令和8年7月15日
発行責任者：病院長 島田信也



JCHO 熊本総合病院

〒866-8660 熊本県八代市通町10番10号

